

愛川町教育委員会

平成30年1月22日

## 愛川町教育委員会 1 月定例会会議録

- 1 会議日程 平成30年1月22日（月）  
午後2時00分から午後2時35分まで
- 2 会議場所 愛川町役場2階201会議室
- 3 議事日程 日程第1 前回会議録の承認について  
日程第2 教育長報告事項について  
(1) 教育長報告  
日程第3 協議事項  
(1) 卒業式・入学式「教育委員会のことば」について  
(2) 平成30年立志式について  
日程第4 その他  
(1) 第72回市町村対抗「かながわ駅伝」競争大会について
- 4 出席委員 教育長 佐藤 照 明  
教育委員 平 田 明 美  
教育委員 梅 澤 秋 久  
教育委員 大 貫 洋
- 5 欠席委員 教育長職務代理者 榮 利 隆 一
- 6 説明を要した者及び議事録作成のため出席した者  
教育次長 伊 従 健 二  
教育総務課長 山 田 正 文  
指導室長兼教育開発センター所長 佐 野 昌 美  
生涯学習課長 折 田 功  
スポーツ・文化振興課長 松 川 清 一  
教育総務課主幹 馬 場 貴 宏

---

◎開会

- （佐藤教育長） 定刻になりましたので、ただいまから1月の定例会を始めたいと思います。

皆さんこんにちは。本日の出席者は4人であります。定足数に達しておりますので、愛川町教育委員会1月定例会は成立いたしました。

これより開会いたします。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりでありますので、ご承知願います。

これより日程に入ります。

---

◎日程第1

- （佐藤教育長） 初めに、日程第1、前回会議録の承認についてを議題といたします。

12月定例会分でございまして、会議録につきましては既に配付のとおりであります。

これより質疑に入ります。

ご意見、ご質疑がありましたらお願いいたします。

（発言する者なし）

- （佐藤教育長） 特によろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

- （佐藤教育長） 特に質疑ありませんので、質疑を終結し、表決に入ります。

日程第1、前回会議録の承認について、本案を原案のとおり承認することにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

- （佐藤教育長） ご異議ないものと認めます。

よって、日程第1、前回会議録の承認については原案のとおり承認されました。

なお、定例会終了後に会議録署名原本をお返ししますので、委員の方は署名をお願いいたします。

---

◎日程第2

- （佐藤教育長） 次に、日程第2、教育長報告事項についてを議題といたします。

それでは初めに、教育長報告について、資料1に基づき報告をさせていただきます。

平成29年12月25日から平成30年1月21日までに出席いたしました主な会議について、次の

とおり報告させていただきます。

12月27日、全国大会出場奨励金交付式、今回は3名の方に交付をいたしました。ボートの関係で、パラローイング国際大会で優勝された方、ターゲットバードゴルフの全国大会で優勝された方、そしてギター合奏で優勝した高校生の方、それぞれに交付をさせていただきました。

28日、仕事納め式。

年が明けて1月4日、仕事始め式、行政経営会議。

6日、町消防出初式、これは角田の下箕輪消防訓練場で行われました。

午後になりまして、立科町の駅伝競走大会に参加される選手の皆さんが到着いたしましたので、歓迎式を行いました。

7日、町一周駅伝競走大会、教育委員会の皆様にも参加をしていただきましたが、本年度45チームが参加をいたしました。午後は成人式でした。

9日、政策調整会議。

11日、第4回の青少年指導員連絡協議会会議、2年任期で今回が最後の会議ということで、出席をしました。

12日、町議会全員協議会、午後は町商工団体新春講演会、賀詞交歓会。

13日、町の福祉団体合同新年賀詞交歓会。

14日、第7回の町少年柔道大会ということで、非常に寒い中で行われました。遠いところは南では京都、愛知、静岡、そして関東一円で、200名近い小学生が集まりまして盛大に大会が行われました。

15日、行政経営会議、夕方、若手教員との懇談会。今回2回目になりますけれども、3年未満の職員ということで、今回は16人の教員が集まりました。児童・生徒指導についての経験談を話させていただきました。

16日、愛川レッドカーペットの審査会。

17日、愛川高校との意見交換会、来年度の事業等を含めて、校長先生と話し合いました。

18日、19日で町村の教育長宿泊研究会。

20日、町体育協会賀詞交歓会。

21日、町青少年健全育成大会、今年度は三増区青少年育成会と、春日台区青少年育成会に各育成会の取り組みについて発表していただきました。

以上となります。

それでは、何か質疑等があればお伺いしたいと思います、いかがでしょうか。

(発言する者なし)

○(佐藤教育長) よろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○(佐藤教育長) それでは、特に質疑はありませんので、日程第2、教育長報告事項についてはご了承願いたいと思います。

---

### ◎日程第3

○(佐藤教育長) 次に、日程第3、協議事項についてを調査します。

初めに、卒業式・入学式「教育委員会のことば」についての説明をお願いいたします。  
指導室長。

○(佐野指導室長兼教育開発センター所長) 指導室長。

資料2をご覧いただきたいと思います。

1ページ目が、小学校卒業式の「教育委員会のことば」、裏面が中学校卒業式の「教育委員会のことば」、3ページ目、小学校入学式の「教育委員会のことば」、4ページ目、裏面が中学校入学式の「教育委員会のことば」となっております。

いずれも例年どおりの文面でございます。また、「教育委員会のことば」の取り扱いといたしましては、卒業式、入学式の各しおりに基本的にとじ込んでいただくということ、それからできるだけ教頭等に読み上げてもらうこと、もし時間的に厳しい場合は、後ほどご覧くださいと一言、式の中で言ってもらおうという統一の指示をさせていただきまして、今度の校長会で検討したいと思います。よろしく願いいたします。

以上です。

○(佐藤教育長) これより質疑に入ります。

ご質疑、ご意見等がありましたらお願いいたします。

大貫委員。

○(大貫委員) 1つ目、去年も同じことを言ったのを覚えておりますが、まず1ページ目の小学校の卒業式ですけれども、中段あたりに、「中学校とはどんな所だろうか」と期待と不安が入り交じっていることと思いますが、不安を何か持っているのはわかるけれども、不安を文字として使うのはどうかなというようなことを言ったと思うんですけれども、実は私もそんなにこだわってはいないんですけども、個人的な考えですから、皆さんの話し合いで

このままでいいだろうということであれば、あえて強くは言いませんが、「期待と不安」、これは誰でも使う言葉なんですよ、挨拶の中でも。これを「中学校とはどんな所だろうか」といろいろな思いが入り混じっていることと思いますが」というふうに言ってしまえば、期待と不安という言葉を使わなくても済むのかなと、昨晚、寝ないで考えていたんです。

2つ目、次のページ、これはあくまでも提案ですから、皆さんが今までどおりの方がいいというのであれば、そちらを尊重します。今度は中学校の方ですけれども、3分の1ぐらいのところ、「育ててくださった多くの方々の深い愛情を証明するものでもあります」。愛情を証明するというので、別におかしい表現じゃないとは思いますが、中学生の卒業なので、もうその上は専門学校や高校なり、大人になっていくというので、もしそういう愛情という言葉を使って表現するのであれば、「深い愛情の証しでもあります」にした方がいいのかなと、個人的に思って提案をします。

それから、一番最後、「今度は中学校へ新入してくる」、これを読んでいて4行目、そのとおりですが、「真新しい制服」なんですけれども、実は真新しい制服じゃない子もかなりいるんですよ。昔流に言うとおさがりみたいな、あるいはリサイクルだったり、確かに新入生だから真新しい、これは通り相場の言葉ですけれども、そういう言葉を使わない時代になっているんじゃないかなという思いがあって、ちょっと気になっているんです。でも、このままでいいということであれば尊重します。

それから、さらに2行飛んで、「まさに今、皆さんの心は、中学生としての新たな希望に満ちあふれていることでしょうか」とありますが、心に希望が満ちあふれているというつながりの表現なのか、あるいは皆さんの心のところ、胸にはとか、希望に満ちあふれている、胸は希望に満ちあふれている、そっちの言葉の方がつながりがいいのかなという気がするんですよね。その前が確かに「心は形となって現れる」と心を使っているので、皆さんの心はというふうにつながっているんだと思うんですけれども、表現上は希望は胸に満ちあふれているというのじゃないのかなと思って、そこの考えはいかがですかというのを提案させていただきました。

以上です。

- （佐藤教育長） では、「期待と不安」というところを「いろいろな思いが」という表現がいいのではないかと。もう一つが、「愛情の証明」ではなくて「愛情の証しでもあります」の方がいいのではないかと。3点目が、「真新しい制服」はどうかということでした。4点ありましたね、そして「心は」というのが「胸」、「皆さんの胸は希望に満ちあふれてい

る」がいいのではないか、そのようなご意見だと思いますが、いかがでしょうか。

一つ一つ確認をしましょう。「期待と不安」、「いろいろな思いが」、特に文章的には間違っていないんですけども、その使い方がどうかというところだと思うんですけども。

○（大貫委員） 一般的には期待と不安、あえてそれは使わないでいこうという気持ちが私にはあるだけのことでですけども、雪も降っているでしょうから、あまり長引かせてもいけないので、皆さんがよろしいということであれば、あえてどうしてもというふうには思いません。

○（佐藤教育長） 佐野室長、これも去年の意見を考えて、再度検討したんですよね。

佐野室長。

○（佐野指導室長兼教育開発センター所長） 指導室長です。

去年の記録を見させていただきまして、不安という言葉はどうしようかと事務局で話し合いをしました。話し合った結果、私ども事務局といたしましては、「不安があるけれども、温かく迎えてくれるから安心してね」という趣旨を伝えたいと。また少なからず不安を持っている児童も多いのではないかとこのところ、あえてまた同じ形でご提案をさせていただきました。

○（大貫委員） わかりました。そのとおりでいいと思います。

○（佐藤教育長） よろしいですか。

次です。「深い愛情の証し」、これに関して梅澤委員さん、いかがでしょうか。

○（梅澤委員） 「証明」と言われると科学的、論理的に明らかにするというニュアンスがちよっと強いかなという感じがするんです。この卒業証書が深い愛情を取り込んだんだなということを証明できるかと言われると、なかなか難しいかなと思うので、「証し」ぐらいでグレーにしてしまうのは必要じゃないかなと思います。

○（佐藤教育長） 平田委員さん、いかがですか。

○（平田委員） その前に、皆さんの前で毎年読み上げられていないですよ。なので、これを今度父兄の方たちがお家に帰ってちゃんと読んでいるかどうかも定かなものじゃないと思うんですけども、今の内容でいくと「証明」より「証し」の方がおっしゃるとおりいいかなと私も感じます。

○（佐藤教育長） 事務局、いかがですか。

○（佐野指導室長兼教育開発センター所長） はい、結構です。

○（佐藤教育長） では、こここのところは「深い愛情の証しでもあります」ということに変更

したいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

- (佐藤教育長) 次に、この「真新しい制服」についてです。確かに真新しい制服を着ていない生徒もいるかもしれませんね。どうですか。
- (大貫委員) 表現だからね。
- (佐藤教育長) 多くの子はね。
- (大貫委員) 新しいね、真新しいでいいですよ。
- (佐藤教育長) いいでしょうかね。
- (大貫委員) そういう子も多いというのは、承知していた方がいいということ。
- (佐藤教育長) そういうことですね。  
平田委員さんもよろしいですか。
- (平田委員) はい。
- (佐藤教育長) じゃ、ここは「真新しい」をそのまま残しましょうか。  
最後です、「皆さんの心は」の「心」を「胸は」というところですが、これはいかがでしょうか。
- (大貫委員) これにはもう一つ理由があって、教育委員会の小学校の卒業生の方の言葉の下から6行目のところに「大きな希望と夢を胸に」と、ここは「胸」を使っているんですよ。こっちの方の言葉は、その前の「心は形となって現れる」の「心」を受けているから、これとこれを比べる人はいないんだけども、というふうに思って読んでいて、ああそうだった、さっきは「胸」だったというふうに思って、こういうふうに提案をしたんです。どういう言葉でも言っていることは同じですからね。
- (佐藤教育長) いかがでしょうか。  
もし「胸」にするのであれば、中学生として、後ろへもっていった方がいいかもしれませんね。
- (大貫委員) 私は個人的にはそこを「胸」にかえるんだったら、「胸には」の「に」を入れて、それで中学生としての新たな希望が満ちあふれていることでしょうかと、「胸」を使うんだたらそういうふうにした方がいいとは思っているんです。でも「心」のこの状態でやるんだたら何も変えないで、このままでいいと思います。
- (佐藤教育長) 平田委員さん、いかがですか。
- (平田委員) このままでいいですかね。こちらの方が小学生の「胸」というのは、上が

あるから絡んでいるからいいと思うんです。こっちを「胸」にしたら全て「胸」になる。考え方としたら、ここは私は「心」の方がいいのかな。スマートかなと思うんですけども、あるいは全く違う言葉を使って、「皆さんの思い」とか、「皆さんの思いが中学生としての新たな希望に満ちあふれていることでしょうか」という、「思い」はおかしいのかしら、ふと湧いたような言葉になってしまうんですけども。

○（佐藤教育長） 「皆さんの胸は」よりも「皆さんの思いは」の方が流れるかと。

梅澤委員さん、いかがですか。

○（梅澤委員） あえて違うところに僕はひっかかっている、その前の文なんです。「心は形となって現れる」という言葉がありますが、そのところなんです。心が内言、内側の言葉であったり内側の思いだったりすることが形となって現れる、つまり外化する、外に出てくるとい言葉がありますが、その後が、実は外化していない。内側のままの文でつながっているところに、僕はちょっと無意識にひっかかっています。

まさに今皆さんの「心」なり「胸」の中ですよ。「中学生として新たな希望に満ちあふれていることでしょうか」はあふれているのは、あふれて外に出ていると言われればそうかもわかりませんが、結局それが外側に行動として出た瞬間に多分形となって現れるのかなと思うんです。なので、その「さすが」までを切ると、「心」にこだわる必要はなくなるかなと。

○（大貫委員） もう切っちゃってね、切っちゃっていきなり「皆さんの心は」から始めてしまうと。

○（梅澤委員） はい。その「心」でも「胸には」でもどちらでも構わないと思います。

○（佐藤教育長） 指導室長。

○（佐野指導室長兼教育開発センター所長） 指導室長です。

すみません、私が書いたのではないんですが、一応意図としては、その次の「大切なことは、その気持ちを形にしていくことです」につながるんですね。「心は形になって現れるものですよ、その心は今希望いっぱいですね、その希望いっばいなものを一つ一つしっかりと形にしていくんですよ」ということで、そこで外化、外に出ていくという、外に出していくんだよというふうにつながっています。希望を外につなげていくんだよというので、ここは段落が一応つながっている感じで文章をつくっているようです。

以上です。

○（梅澤委員） であるならば、「今、皆さんの心は、中学生としての新たな希望に満ちあふれていることでしょうか」で行を変え、「心は形となって現れる」という言葉がありますが

と。

- （大貫委員） 入れ替えかな。
- （梅澤委員） そう、入れ替えをした方がつながるかと思います。変なところで段落が変わっているのです、これは文を入れ替えることと改行のあり方を変えないと、今のようにはつながらないかなと。
- （佐藤教育長） 指導室、いかがですか。今の文章の入れ替えについて。  
指導室長。
- （佐野指導室長兼教育開発センター所長） 指導室長。  
確かにその方が書いた者の意図が伝わるかと感じます。
- （佐藤教育長） その部分は入れ替えということで、では「今、皆さんの心は、中学生としての新たな希望に満ちあふれていることでしょう。「心は形となって現れる」という言葉がありますが、大切なことは、今の・・・」ということでもいいですね、つながっていくということ。
- （梅澤委員） であるならば、「心」を残した方がいいかなと思います。鍵抜きで「心は形となって現れる」というところに戻した方がいいと思います。
- （大貫委員） では、「心」のままでいきましょう。
- （佐藤教育長） 入れ替えだけで「心」でいくということでもよろしいでしょうか。  
(「はい」との声あり)
- （佐野指導室長兼教育開発センター所長） ありがとうございます。
- （佐藤教育長） それでは、ほかに質疑等はございますか。  
(発言する者なし)
- （佐藤教育長） よろしいでしょうか。  
(「はい」と呼ぶ声あり)
- （佐藤教育長） それでは、他にありませんので、卒業式・入学式「教育委員会のことば」についてはご了承願います。  
次に、平成30年立志式についての説明をお願いいたします。  
生涯学習課長。
- （折田生涯学習課長） 生涯学習課長。  
まず、先日の成人式につきましては、おかげさまで無事に実施することができました。皆様に改めてお礼を申し上げます。どうもありがとうございました。

それでは、平成30年立志式についてご説明させていただきます。

資料3をご覧ください。

第50回目となります本年度の立志式は、町文化会館ホールで平成30年2月2日金曜日に開催し、午後1時の開式を予定しております。

第1部の式典は午後1時から、第2部の講演は午後2時頃からを予定しております。第2部の講演は、昨年に引き続きまして、坂本達さんを講師としてお招きし、「夢への挑戦～立志を迎えた君たちへ！～」をテーマとした講演が行われます。

資料の最終ページに講師のプロフィールを掲載しておりますので、後ほどご覧ください。

しおりは昨年度と同じレイアウトとなっております。見開き左側に町民憲章を、右側に愛川町教育大綱を掲載しております。当日入り口で受付が終わりましたら、文化会館応接室を控室としてご利用ください。その後、職員がご案内をさせていただきます。本会議終了後に当日のご出席、ご欠席を確認させていただきます。

なお、当日式典の様子を、エフエムさがみが取材し「それゆけ！さがみ月光団！」という地域情報番組で放送される予定となっております。

簡単ではありますが、立志式についての説明は以上であります。

○（佐藤教育長） それでは、これより質疑に入ります。

ご質疑、ご意見等がありましたらお願いいたします。

立志式の表紙は、文字のところが小文字に、「平成30年2月2日」が小文字になっていますが、これは大文字に変えるんですか。

○（折田生涯学習課長） 大文字に変えます。

○（佐藤教育長） 大井町と愛川町のみが立志式ということでやりますので、伝統と歴史があると思いますね。

○（大貫委員） 新制中学校の20周年で、なおかついろいろところが確か考えたんだよな。それで立志式みたいなのをやるというところと、厚木市は各新制中学校のところには立志の塔とか、コンクリートで20周年を記念してつくっているんだよ。そういうイベントの一つの形を変えたものなんだよな。まだ前の、東中の横にあった……。

○（佐藤教育長） では、そういう歴史ある立志式であります、よろしいですか。

（「はい」との声あり）

○（佐藤教育長） 特に質疑はございませんので、30年立志式についてはご了承願いたいと思います。

それでは、日程第3、協議事項については以上とさせていただきます。

---

◎日程第4

- （佐藤教育長） 次に、日程第4、その他を議題といたします。

初めに、第72回市町村対抗「かながわ駅伝」競争大会についての説明をお願いいたします。  
スポーツ・文化振興課長。

- （松川スポーツ・文化振興課長） スポーツ・文化振興課長です。

まずもって、第63回の愛川町一周駅伝競走大会の実施に当たりましては、皆様方のご協力と温かい声援をいただきまして、誠にありがとうございました。おかげさまで大きな事故もなく適正に迅速に運営できましたこと、この場をかりてお礼をさせていただきたいと思えます。ありがとうございました。

本日は、資料4によりまして、恒例のかながわ駅伝大会のご案内を申し上げます。

期日が2月11日日曜日、秦野市から相模湖までの51.5キロメートルを駅伝競走大会が行われます。開会式は8時、スタートは9時でございまして、閉会式が12時45分、愛川町を通過する時間帯が、概ね資料をおめくりいただきますと6ページ、通過予定時刻がございしますが、約10時半から11時ごろの間というふうにご理解いただければというふうに思います。ご存じのとおり、昨年町村の部で優勝、総合でも13位と大きな活躍をした愛川町チームでございします。今年度も箱根駅伝で10区、アンカーを走られました荻田君を始め、壮々たるメンバーがこの駅伝に挑んでおります。今年度も期待するところでございます。

皆様方におかれましては、寒い空のもとでございすけれども、愛川町内において選手へのまた温かい声援をお願い賜りたくご案内申し上げる次第でございします。

説明は以上でございします。

- （佐藤教育長） それでは、質疑に入ります。

質疑、ご意見等がありましたらお願いいたします。

（発言する者なし）

- （佐藤教育長） よろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

- （佐藤教育長） 特に質疑はありませんので、第72回市町村対抗「かながわ駅伝」競走大会についてご了承願います。

本日の案件につきましては全て終了いたしました。各委員からご意見、ご感想等々があ

りましたらお願いいたします。

(発言する者なし)

○(佐藤教育長) よろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○(佐藤教育長) それでは、事務局で何かございますか。

(「特にございません」との声あり)

---

◎閉会

○(佐藤教育長) それでは、以上で1月定例会の議事日程は全て終了いたしましたので、閉会としたいと思います。ご異議はありますか。

(「異議なし」との声あり)

○(佐藤教育長) ご異議ないものと認めます。

よって、1月定例会を閉会といたします。

長時間にわたり、大変ご苦勞さまでございました。

愛川町教育委員会会議規則第17条第2項の規定により、ここに署名をいたします。

平成30年2月26日

教育委員会教育長

佐藤 照明

教育委員会

教育長職務代理者

教育委員

平田 明美

教育委員

梅澤 秋久

教育委員

大貫 洋

調整職員

馬場 貴宏